

# 朋友 おおいた

第3号

発行  
大分教区仏教壮年会連盟  
〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146  
FAX 0977-24-7831

## み教えに出あう



大分教区仏教壮年会連盟会長  
大分教区教務所長

野川大卓

今年3月11日に宮城県三陸沖で発生した東日本大震災では、東北教区をはじめ東京、長野、国府などの東北関東の各教区内におられました方々が、地震、津波及び原発事故で甚大な被害を受けられ、多くの方がお亡くなりになられましたこと衷心哀悼にたえません。ご遺族をはじめ被災されました皆様方の心中を拝察申し上げますとおれませぬ。国や政府をはじめ国内外の多くの方々が救援、復興支援にあたられて現在の姿までになりましたが、安心できる生活に戻るまでには相当の時間が必要です。宗門におきましては、宗祖親鸞聖人750回大遠忌宗門長期振興計画が『新たな始まり』と明日の宗門の基盤作りを基本的な考え方として、その目標と重点項目

に沿い推進されております。去る4月9日より長期振興計画の目標の一つであります「宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要」がご本山でご修行されております。既にご参拝された方々、これからご参拝をご予定頂いております方々、今までご縁のなかつた方へご参拝の呼びかけをお願いいたしたく存じます。共々にこのご縁に会わせて頂きたいものです。み教えに出あう時、凡夫は、他の誰のこともなく、この私のことと気づかれます。念仏申すひぐらしの中に、ありのままの私の姿を見せていた時、今、朋友として私に何ができるか、何をしなければならぬかを考え、心豊かに生きる社会の実現をめざす活動が更に充実できますことを願っています。

合掌

## 親鸞聖人750回大遠忌法要の年に



大分教区仏教壮年会連盟理事長

有永俊文

親鸞聖人750回大遠忌法要がいよいよ始まるうとした矢先の3月11日、東日本を襲った自然の猛威は、私達の想像を遙かに超えるものでした。この出来事により亡くなられた多くの方々に衷心より哀悼の意を表します。又、このことは私達自身も何時か同じ立場に置かれることがあるかも知れないということをおこさせられることでもありました。そして今、国民一人一人が被災者に向けて何かしなくてはならないという気持ちでいる事も、あらゆる場面で知らされていきます。私達は常日頃より阿弥陀様のお

慈悲の内に生かされているということをお思い、日々を送らせて頂いていますが、今、まさに親鸞聖人のみ教えに学んだことをあらためて実践することが大切だと思えます。とりわけ今回の大震災を教訓に私達の身近なお寺と門信徒が一体となった『災害とボランティア』という新たな課題に取り組みることが大切なこととなってきているのではないのでしょうか。大遠忌法要の年に『仏教壮年会連盟綱領』の意義をこの新たな課題の中に生かしつつ、共に念仏申す朋友の輪を拡げてまいりましょう。

合掌

## 役員紹介

理事  
任期：2011.4.1～2014.3.31

組	氏名	所属寺	役職
大海	加藤 武士	専念寺	副理事長
由布院	伊東 俊泰	教法寺	副理事長
速見	平松 幹雄	寶蓮寺	
臼佐	森崎 俊範	真宗寺	理事長
東国東	斎藤 暁	光明寺	
豊後高田	安藤 悟	法専寺	
国東中	有永 俊文	光徳寺	理事長
大野	披間 利幸	乗蓮寺	
玖珠	畑山 忠成	専光寺	
日田	高瀬 征生	照蓮寺	
岡	中城 賢一	光明寺	
耶馬溪	松本 和男	教円寺	
下毛中	植山 忠夫	長久寺	
中津	白石 耕三	西楽寺	
深見	三谷 幸助	光蓮寺	
院内	佐藤 和男	教徳寺	
津房	佐藤 兼次	円徳寺	
宇佐			

# 活動報告

## 中津組仏教壮年会の取組み

— 大分教区・中津組 —

中津組 明蓮寺 仏教壮年会  
吉川 進 明

私は明蓮寺の仏教壮年会に参加する事により、親鸞聖人のみ教えを学び、その心を持って地域社会へ貢献する喜びを知りました。

2月、明蓮寺併設の愛光保育園での餅つきは盛大で楽しい行事であります。

仏壯12名で参加し、愛らしい園児とご住職と一緒にかけ声をかけながらリズムに合わせて、一心不乱、心をこめ餅をつきました。我々の熱気が園児にも伝わったのか、大はしゃぎ。

その餅は老人施設「悠久の里」へ、皆で届けました。入所者の方にも大変喜んで頂き私もその笑顔に充実感がみなぎりました。

我々が次世代へ伝える事は、難しい理屈ではなく行事を通じて楽しむ心のふれあいなのではと実感しました。

法要では、阿弥陀如来のお救いとお念仏のおいわれを味わわせて頂く事が重要です。

そして、それまでの準備等を門徒一同で行う。その過程も大切に



す。お寺は実社会とは違う視点や価値観の場です。上下関係ではなく「御同朋」というつながりです。昨今の冷えきった人間関係を潤す意味でも、お寺の役割はこれから大きくなる事と思います。

又、明蓮寺仏壯は他にも大活弁士、麻生八咫先生による無声映画『大河内傳次郎』と『チャップリン』を上映しました。このような楽しい催し物も多々あり、そしてご住職の碩学で柔和な人柄も相まって、お寺がより身近に感じられます。

明蓮寺仏壯は、み仏のお慈悲を喜び、そのみ教えを学びながら社会貢献に尽力していきたいと思っております。

合 掌

## 「御同朋」

中津組では毎年3月5日、組内の小祝の光専寺様にて「仏教壮年会の研修会」を開催し、中津組の年中行事として定着しています。また、この日は光専寺様の御正忌がお昼までとなり、光専寺様におみえのご講師が「仏教壮年会の研修会」のご講師をして頂くという方法でおこなっています。

毎回70人近くの壮年の方々に参加を頂いております。そして参加者の年齢層はと言いますと自称「壮年」の方が比較的多く、実年齢「壮年」の方の参加は必ずしも多いとは言えないのが実情です。

しかしながら、その自称「壮年」の方々の参加が多いのは、以前からこの研修会に参加されるこの研修会に参加するのが楽しいみな方が多いからではないのでしょうか。

また、壮年の方に参加していただくので、仕事が終わったあとの時間からということ、夜7時からの開催となっています。この辺りが、他の研修会と違っ



ています。

自分のお寺にはお参りに行きませんが、他のお寺へお参りする機会がないので、この研修会が貴重な体験となっています。

またそこで、日ごろ仕事や、お付き合いでの知り合いが、この研修会に参加してお会いすることもあり、お互い知らなかったけれども同じ浄土真宗のご門徒であったなど、新たな出会いの場ともなっています。

年に一度ですが、大変有意義な研修会となっています。

法話

価値と意味



大分教区 大海組 徳応寺住職  
大海組組長 本願寺派司教

東光爾英

一、生きてゆく不安

三月十一日の東日本大震災は、大きな傷跡を残し人々に自然の恐ろしさを実感させた。十六年前、阪神淡路大震災救援隊に参加した時に聞いた、被災された方々の悲痛な声よみがえが蘇よみがえった。一瞬にして死別した家族、すべての財産を奪われ、あたりまえだと思っていた平穏な生活から、一転して過酷な避難所生活。やがて、自分は何のために生きてきたのか、これから何を抛なり所に生きてゆけばよいのか、生きてゆく上での問題ではなく、生きてゆくこと自体の問題へと不安は変わっていった。

この不安からの問いは、被災などの非日常的事件によって表面にあらわれるが、実は、その大小はあっても、誰もが持っている問いなのである。

二、大切なものの価値観

私たちは「大切なもの」とする基準を心にもっている。それを価値観という。国立がんセンター所長、種村健次朗先生は、この価値観には二つあると言われる。一つは、お金に代表される価値観。欲しいものを多く交換できる、努力すれば手に入れることができる価値観である。二つめは、命に代表される価値観。何ものにも交換できない価値観である。最大の努力はするが、どんな結果でも満足するというもので、大いなるものにゆだねるしかないものである。

私たちは日常、この二つを持ちながらお金に代表される価値観によって生きていて、と先生は言われる。しかし、癌がんにかかれ、しかも末期癌の方に対する心の治療には、この命に代表される交換することのできない価値観が特に重要になるとも言われている。

だが、人は生まれたら死ぬ、一緒になれば別れが必ずある、健康体でも病気などの障害の可能性を秘めていることは百も承知の筈である。しかし、身近な人との死別や、災害などの事実の前に、そうした頭にもっていた知識、命に代表される価値観があるという知識は、まったく無力となる。「こんな悲しみがあつたのか」と驚き動転することになるのである。

三、意味による生き方

仏教では、こうして変化すること、変化性が自然だと教える。明日の我が身に何が起るかわからぬ不安定なあり方が自然だという。しかしだから諦めよというのではない、昨日も今日も健康でいることは当たり前でなく、そう有ることが不思議だという見方である。そういう視点、見方の転換ができたとき、そこに新しい生き方

が見いだせるのである。

すなわち、「価値」でもものを見るのではなく、「意味」をもって生きてゆくことの大切さを教えるのが仏教である。自分にとつての生は死があるからこそ意味があり、死も生によって意味をもたっている。でなければ、死して灰になればその価値はなくなる。

出遇ってきた人が自分にどれだけの価値があつたかではなく、出遇った人々がどれだけ自分に意味をもたらしめてきているか、また自分も人々に意味をもたらしめているかと、その関係性に気づく生き方である。これを仏教では縁起えんぎという。

ところが私たちには、この縁起を十分に理解することがむづかしい。そうした私たちに、ナモアミダブツと呼びかけ、自分に願われた意味をもつ命を、全ての人々が平等に生きていくよと、はたらきかけてくださるのが、阿弥陀如来である。こうした生き方にめざめるには、仏の教えに出遇いしゆわねば気づかない。被災地、石巻いしのまきに住む私の友人夫婦も瓦礫がらの中から遺体で見えられたと知り、大きな悲しみを受けた。生かされる意味を聞き続けてゆくしか、この悲しみを受け止める道はないと考える。

報告

門徒壮年結集大会、総会に参加して

岡組 光明寺門徒  
後藤 信正

このたび、総会参加の依頼を受け、本願寺別府別院での総会に参加させていただき、多くのことに気づかされ勉強になりました。

・研修旅行をとりいれての連帯づくり。  
・門徒数35戸でも念仏奉仕団を結成して本山に行く活動。

そのなかで「自分ひとりですべてきたとの思い違いに気づかされ、他の人のささえて生かされていることに気づいた」との報告がありました。私の人生もまさしくそのようであったことに気づかされました。また門徒数が少なくなってもしっかりと活動されていることに学ぶところがありました。

講話ではご講師が仏教の歴史や教え、物の見方を落語風にわかりやすく話され、とくに「手を打てば鳥は逃げ、鯉は集まる猿沢の池」の句の話が客観的なとらえ方を教えられました。

還暦を過ぎた私にとって今後の人生の生き方の指針となるお話を聞くことが出来ることがありました。現在の世相のなか多くの寺がなく、なっている話を聞きます。しかし悩んでいる人も多く、そんな人に浄土真宗が生きていく希望を与えられるなら共に寺を守らなければと思いません。

「今回親鸞聖人750回大遠忌法要の御縁に遇わせて戴きました」

4月12日 私たちは満開の桜を見ながら、17時 大海組Aコース班の皆様とバスで大分港へ向かいました。

193名が大分港からフェリーで神戸港へ。翌朝神戸港からバスで西本願寺に到着。雲ひとつない青空のもと桜が満開の真新しい御影堂に案内されました。

内されました。

私たちは南側の御堂の外側柱の通りに着席致しました。御堂の中は2800名の参拝者で一杯でした。

御開山親鸞聖人様は少し見えづらかったですが、目の前のモニターの大画面で御内陣御真影様が目の当りに見えるように心配りがなされてありました。

しばらくしましたら私が座っている前の通路を全国の僧侶の方々、雅楽の方々が御影堂の中に入って行かれました。

ここから親鸞聖人750回忌大遠忌法要が厳粛の中に始まりました。御門主様の御親教。東日本大震災の犠牲者又被災された方へのお見舞いのお言葉がありました。ご恩報謝の心を共にしたいと述べられ、

世のなか安穩なれ  
仏法ひろまれ、



仏教壮年会連盟綱領

われわれ仏教壮年は、  
自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、  
ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、  
心豊かに生きる社会の実現をめざします。

ここから（音楽法要）正信念仏偈 御影堂に音楽法要が和がれ、和讃・念仏、そして宗祖御消息を御門主様が拝読され、最後に新門様のお言葉を戴きました。私は阿弥陀様に向かいお念仏の心にふれさせて戴いたことに感謝致しました。  
50年に1度のご縁に会わせて戴き皆様と心に残る参拝が出来ました。

合掌  
流芳寺 門徒 仏教壮年会  
篠田 賢二

あとがき

梅雨が明けても、夏らしいギラギラした日々がやって来ない変な今年です。御朋友の皆様は、いかがお過ごしのことでしょうか。

東日本で3月11日に被災された方々は、一瞬のうちにこの世の地獄を目の当たりにされたことと思います。

謹んで1日も早く平凡な日常生活が来ますように心からお見舞い申しあげます。

暑くて汗がやまない夏日の午後：  
例の3人兄弟が野球帽をかぶりランニングシャツに半ズボン姿で、親に買ってもらった真新しい虫取り網と虫かごを持って遊んでいる風景を目の前にして、仏のおみりに包まれて子供たちの笑顔を見ている、何事もなく平々凡々と平和に過ごしている今日この日この時を心の底から全てのものに感謝をしなくては...と思ひ知らされました。皆様も今日ある命と共に平凡な平和な毎日に感謝をし、元気で毎日を送りましょう。

編集委員長 平松 幹雄  
副理事長 合掌